

中医学いろはにほへと

どうやって診たてるの？～弁証論治～

弁証論治についての
バックナンバー



前回までは「なぜ病気になるのか」を学んだね。今日からは「病気」をどう判断して対策方法を考えるのかを勉強するびゃよ！
今回はその中でも一番大切な考え「弁証論治（べんしょうろんち）」を勉強するびゃよー！



福 フク
ゆるっと養生先生
中医学が大好き
稲田の相棒。□ぐ
せは「びゃ」

中医学では「証」が全て！～弁証論治～



Q 弁証論治（べんしょうろんち）って何ですか？



A 中医学特有の分析方法。四診（ししん）でカラダ全体の情報を集めて症状の原因を探し出し、証（しょう）を決める。その証に合わせた治療方法を選ぶこの一連の作業は「**弁証論治**」と呼ばれ、中医学の最も重要な骨格となっている。



Q 証（しょう）のついて詳しく教えてください



A カラダ全体の状態・体質を総合的に評価した中医学の概念。四診でこころやカラダについて様々な情報を集める。その情報を総合的に分析し**整体観（せいたいかん）**などの東洋医学理論に照らし合わせて証が決定される。



Q 整体観（せいたいかん）とは？



A 「人は自然の一部であり、人もまた一つの自然である。人と自然は同じ構造で出来ている。」という考え方。物事を俯瞰して全体的に捉える。



西洋医学	中医学
診察・検査	四診
診断	弁証
治療方針	論治

西洋医学：診察→診断→治療方針の確定
東洋医学：四診→弁証→論治

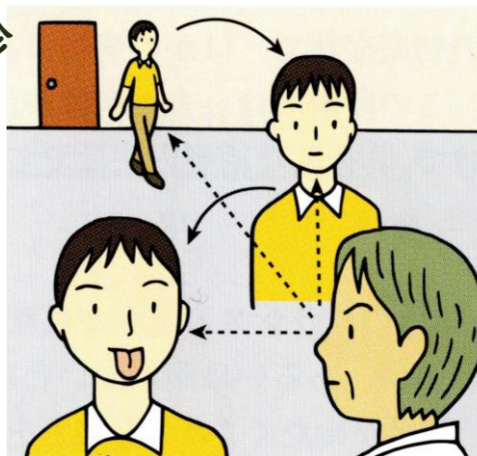
整体観についてのバックナンバー①②



四診（ししん）とは…

「証」を決めるための方法。触覚・視覚・聴覚・嗅覚などの五感を使って状態を把握する。主訴とは関係ないような情報でも全身を判断するうえでは必要なものが多い。医療器具・機器などがなかった2,000年以上前に成立。血液検査や画像検査だけではわからない情報も大事にする。「漢方医学は人を診る医学」と言われる所以はここにある。

■望診 (ぼうしん)



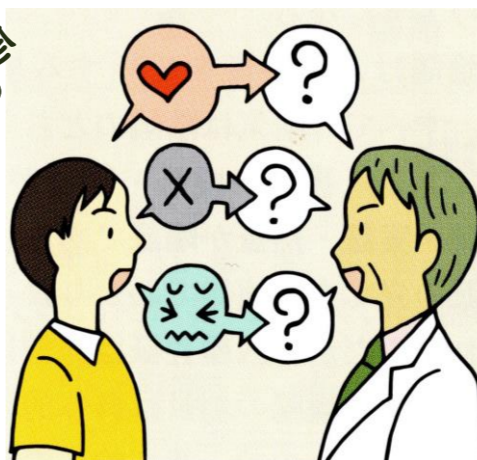
視覚で観る。体型や動き方、皮膚・顔（色・表情）舌の状態を見る舌診もある。

■聞診 (ぶんしん)



声や呼吸音、話し方、咳の音などを聞く。「ニオイ」も大切な情報。

■問診 (もんしん)



痛み、熱などの自覚症状や食欲・睡眠・運動の様子・生活環境、既往症など色々な情報を集める。

■切診 (せつしん)



患者に触れて診察する。脈診や腹部を調べる腹診がある。

※薬機法に則り、当店では行っておりません

同病異治（どうびょういち）→同じ病気でも証が違うために異なる治療が施されることびゃ例）風邪・・・寒さが原因の風邪と、熱が原因の風邪

異病同治（いびょうどうち）→病気は違っても証が同じなので治療が同じになるびゃ例）肩こり・生理痛・頭痛で同じ漢方を使う場合もある



中医学では自覚症状を中心に「**身体全体のバランス**」を診て証を決める。そのために様々な質問をしてたくさんの情報を集める。一見、まったく違う病気でも原因が同じことがある。「**原因**」にアプローチするので、複数の症状が一緒に改善することも珍しくないびゃ！これが中医学のすごいところだびゃ！

